

農山漁村振興交付金(都市農村共生・対流及び地域活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名:かみかつ棚田未来づくり協議会

令和3年5月31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	主たる取組メニュー名	取組概要
徳島県 上勝町	平成29年度	地域資源活用対策	少子高齢化・過疎化、後継者難が一層進展する棚田地域において、持続可能な集落維持のため、棚田資源を活用した交流活動を創出し、集落居住による担い手づくり等の地域活性化を目指す。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

3000本LED棚田ライトアップ交流創出等についてはコロナ禍の影響により取組が難しいと思われるが、地域の木材を活用した新商品の開発・販売等を促進し、コロナ禍を逆に利用した販売戦略を検討・実行し、売上げ、雇用の創出を図ること。

2. 低調と評価された要因

・交流人口、売上げ、雇用の実績がH29以降減少し、目標を達成できていない。
 ・棚田ライトアップについては、協力してくれていた若者のボランティアが解散となったこと、高齢化する地域の負担軽減を図るため開催期間を短縮したこと、棚田ライトアップのマスコミのPR情報発信が、東北豪雨の影響でNHK及び徳島新聞共、ライトアップ終了後の掲載・放映になったことから、交流人口や売上の目標達成ができていない。

3. 目標達成に向けた方策

・コロナ禍で直接交流活動が激減したが、オンライン交流化での取り組み、新規アプローチなど、取り組み方法を抜本的に改善した。
 ・3000本LED棚田ライトアップ交流創出等についてはコロナ禍の影響により取組が困難であったが、オンラインでの情報発信に努めた。
 ・地域の木材を活用した新商品の開発・販売等を促進し、コロナ禍を逆に利用した販売戦略を検討し、売上げ、雇用の創出を図った。
 ・新規に「棚田アイス」の企画販売、棚田アクティビティとしての地域や外部支援者の交流を生む「棚田50の冒険」、オンライン交流を目指す「かみかつ棚田ウェブ談義所」などを創設した。
 ・また、地元住民だけでなく、若者が参加するような体制の構築を目指してSNSを重視してPRを行った。

4. 改善状況

下記の取り組みを行い、改善した。
 ・【1:棚田アイス】上勝町の棚田米使用の棚田アイスを製造者と開発し、販路開拓等を行い10月~3月間で1252個の棚田アイスを販売し、企業連携・事業所連携を進めた。
 ・【2:コロナ対応、ライトアップ・木製足踏みスタンドづくり】コロナ対応として棚田2地区で小規模LEDライトアップを開催した。コロナ対策器具の木製足踏みスタンドを開発し、体験活動を行った。また制作スタンドを近隣の小学校、中学校、高校に各1基ずつ寄付した。
 ・【3:棚田アクティビティ・棚田50の冒険】イタリアで出版された「13歳までにやっておくべき50の冒険」を参考に、「棚田50の冒険」冊子を3年後に発行する明確な目標を設定した。
 ・【4:学校連携連携】コロナ禍で直接の交流活動は困難なため、今後に向けて、協議会作成のボランティア活動証明手帳を活用し、中学校訪問・高校訪問を行った。
 ・【5:棚田ウェブ談義所】2020年度に42回開催し、377名の参加を得た。
 ・【6:地域共同研究】ウェブ談義所の継続開催により研究者・専門家20名程度の組織化ができた。
 ・【7:オンライン交流】SNS発信を進め、12,185名の交流を実現した。